ウトナイ湖・勇払原野保全プロジェクト　要望書

国際熱核融合実証実験炉（ITER）の苫東（弁天地区）誘致中止を求める要望
　苫小牧市長宛　2000 年 12 月 20 日付
国際熱核融合実証実験炉（ITER）の苫東（弁天地区）誘致に反対する陳情
　苫小牧市議会議長宛　2000 年 12 月 20 日付

日野鳥発第９４号

2000年12月20日

苫小牧市長
鳥　越　忠　行　様

財団法人　　日本野鳥の会
会　長　黒　田　長　久

国際熱核融合実証実験炉（ITER）の
苫東（弁天地区）誘致中止を求める要望

拝啓　時下ますますご清祥のことお喜び申し上げます。日頃はウトナイ湖サンクチュアリの活動に多大なご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知のとおり今後、欧州連合、ロシア、日本の３極による国際熱核融合実証実験炉（ITER）の建設候補地の選定が行われ、日本国内の候補地として貴市の苫小牧東部地域も挙げられております。また北海道知事ならびに貴職も誘致を表明されていると伺っております。

しかしながら、ITERの建設候補地として挙げられている苫小牧東部地域、特に弁天沼周辺は、下記のとおりラムサール条約登録地であるウトナイ湖に勝るとも劣らない、優れた自然環境があり、ITERはこの優れた自然環境に重大な影響を及ぼすおそれの極めて強い施設と考えます。

つきましては、ITERの苫東誘致を中止していただきますよう要望いたします。

敬具

記

１．弁天沼周辺は、貴重な野鳥の生息地です。

（１）建設候補地である弁天沼周辺は、環境庁のレッドリストに挙げられている、サンカノゴイ（絶滅危惧種ＩＢ類）やチュウヒ（絶滅危惧種ＩＩ類）の繁殖を始め、オジロワシやオオワシの越冬など絶滅の心配されている鳥類の生息地となっております。

（２）ウトナイ湖のラムサール条約登録基準の該当種であるマガン、ヒシクイなどのガン類や、環境庁のレッドリストで準絶滅危惧種にされているオオジシギが渡りの中継地としてウトナイ湖と弁天沼の両湿地を利用していることが明らかになっています。

（３）弁天沼周辺は、勇払原野の典型ともいえる生態系、自然景観をいまだに保っており、苫小牧地方の典型的な自然環境であり、原風景でもあります。これを生かした保全と利用を検討すべき地域と考えます。

２．ITER の影響

（１）施設の建設は、用地そのものが野生生物の生息場所の消失につながります。また、湿地であるため、相当の深さまでの基礎工事が必要と考えられ、地下水系にも影響があると考えられます。これは弁天沼の水位にも影響を及ぼします。さらに付帯する道路等の建設は、生息地の分断や騒音等がガン類のねぐらにも影響すると考えられます。

（２）万一、融合炉稼働中に事故が発生し、トリチウムをはじめとする放射性物質が施設外に排出された場合、当地域の卓越風向は南東風であることから、周辺のみならずウトナイ湖への影響も懸念されます。

（３）ITER は建設に１０年、稼働２０年と伺っておりますが、実験終了後にも大量の放射性廃棄物が残ります。科学技術庁では、地域内での処分をとの見解を公表しておりますので、当地域で処理されることになります。処分場としてさらに用地を要するほか、地下水の汚染も懸念されます。

以上

日野鳥発第９３号
2000 年 12 月 20 日

苫小牧市議会
議　長　吉　岡　透　様

財団法人　　日本野鳥の会
会　長　黒　田　長　久

国際熱核融合実証実験炉（ITER）の
苫東（弁天地区）誘致に反対する陳情

拝啓　時下ますますご清祥のことお喜び申し上げます。日頃はウトナイ湖サンクチュアリの活動に多大なご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知のとおり今後、欧州連合、ロシア、日本の３極による国際熱核融合実証実験炉（ITER）の建設候補地の選定が行われ、日本国内の候補地として貴市の苫小牧東部地域も挙げられております。また北海道知事ならびに苫小牧市長も誘致を表明されていると伺っております。

しかしながら、ITER の建設候補地として挙げられている苫小牧東部地域、特に弁天沼周辺は、下記のとおりラムサール条約登録地であるウトナイ湖に勝るとも劣らない、優れた自然環境があり、ITER はこの優れた自然環境に重大な影響を及ぼすおそれの極めて強い施設と考えます。

つきましては、貴市議会におかれまして ITER の苫東誘致に反対していただくよう陳情いたします。

敬具

記

１．弁天沼周辺は、貴重な野鳥の生息地です。

（１）建設候補地である弁天沼周辺は、環境庁のレッドリストに挙げられている、サンカノゴイ（絶滅危惧種ＩＢ類）やチュウヒ（絶滅危惧種ＩＩ類）の繁殖を始め、オジロワシやオオワシの越冬など絶滅の心配されている鳥類の生息地となっております。

（２）ウトナイ湖のラムサール条約登録基準の該当種であるマガン、ヒシクイなどのガン

類や、環境庁のレッドリストで準絶滅危惧種にされているオオジシギが渡りの中継地としてウトナイ湖と弁天沼の両湿地を利用していることが明らかになっています。

（３）弁天沼周辺は、勇払原野の典型ともいえる生態系、自然景観をいまだに保っており、苫小牧地方の典型的な自然環境であり、原風景でもあります。これを生かした保全と利用を検討すべき地域と考えます。

２．ITER の影響

（１）施設の建設は、用地そのものが野生生物の生息場所の消失につながります。また、湿地であるため、相当の深さまでの基礎工事が必要と考えられ、地下水系にも影響があると考えられます。これは弁天沼の水位にも影響を及ぼします。さらに付帯する道路等の建設は、生息地の分断や騒音等がガン類のねぐらにも影響すると考えられます。

（２）万一、融合炉稼働中に事故が発生し、トリチウムをはじめとする放射性物質が施設外に排出された場合、当地域の卓越風向は南東風であることから、周辺のみならずウトナイ湖への影響も懸念されます。

（３）ITER は建設に１０年、稼働２０年と伺っておりますが、実験終了後にも大量の放射性廃棄物が残ります。科学技術庁では、地域内での処分をとの見解を公表しておりますので、当地域で処理されることになります。処分場としてさらに用地を要するほか、地下水の汚染も懸念されます。

以上